

なぜ地域材か？

坂さんは、小学生の頃に遊んでいた川を見て水が少なくなっていることに気づきました。昔、泳いでいた川の水位がこんなにも減ってしまったことを父に尋ねると、地域の山から木材が伐出されなくなり、何十年か手入れがされていないことで森林は荒廃が進み、十分な地下水が作られなくなったのでは…と。このことが地域材を販売しようという大きなきっかけのひとつになったそうです。

オーダー家具の販売を始めて15年。お店を通して未来のためにすべきことが日々明確になってきたといいます。2017年にはJR四日市駅近くに木材と家具の販売専門店「BROOKファニチャーセンター」をオープンしました。坂さん「今、僕たちがやらなければならぬことは、三世代後に健全な山の環境をつくっていくため、どうしていくかを考えて動いていくことだと思います。」

僕は材木屋として生まれてきたので、木を販売することについてしっかりやらないといけない。」

そして今後は「地域材を売るだけでなく、山に携わるすべての人がそれなりの対価を得られるような仕組みを見直していきたい」と話してくれました。山から木を伐り出す人、木材を製材する人：林業全体が活性化することで、木を伐って利用してまた植えての循環が成り立ち、豊かな山の環境を保つていくことができます。

流域の環境まで考える

材木会社、三栄林産の創業者である坂さんの祖父が植林した山が、亀山市加太地区にあります。現在、その山の木は60～70年生に



育つていて伐期を迎えています。今すぐ

にでも使いたいのですが、林道が整備されておらず伐り出すことができません。坂さんは山の手入れができず、見るに堪えないほど荒れてしまっている山を目の当たりにして、「こうした山の現状を知ってほしい」と話してくれました。祖父が孫たちを想い、スギやヒノキの苗木を本ずつ手で植林してくれたという木を使うことが坂さんの今後の希望でもあります。

加太の山は鈴鹿川の源流域にあります。山の地下水が集まって次第に大きな川となつて伊勢湾へとつながっていきます。豊富



三栄林産(ノッティーハウズリビング)

な水を貯え、おいしい水をつくり豊かな海を育みます。水源となる加太の山を守ることは、その流域圏に住む人たちの暮らしを豊かにすることにつながっているのです。

未来に豊かな環境を残していくために



今回は「エシカル消費」特集として、BROOKの取組みをご紹介します。坂さんのお話から「地域材を利用した家具を作り、豊かな環境を未来につなげていきたい」という坂さんの強い思いが伝わってきました。

私たちは食品を買うとき、どこで作られているのだろう？と食品表示に記載されている産地をよく確認します。でも、木の製品を買うときに、この木はどこで育ったのだろう、誰が伐ったのだろう？と考えることはあまりしないのではないのでしょうか。私たちが少し意識をして、地域の木材で作られたものを使うことで、地域の林業を応援することになり、地域の森林や水環境を守ることにつながります。

「エシカル消費」は、消費者と生産者をつなぎ、地球環境を守り、持続可能な経済、社会をつくりだします。みなさんも今日から買い物にエシカル視点の視点を少し取り入れてみませんか。

写真提供 BROOK

三栄林産グループ

昭和25年創業の三栄林産株式会社を中心にグループ会社を展開。ひとりの想いを「ていねい」に紡ぐ、森と木のあるライフスタイル創造カンパニーを企業理念としています。



先代が植えた地元の木を育て、森をつくる。地域の資源を活かしながら、豊かな自然を後世に残し、森林・地域・家族 三つがずっと栄え続けていけるような、100年企業を目指します。



ノッティーハウスリビング
亀山市加太中在家8032-1
【三栄林産(製材部)】
TEL:0595-98-0114
【ノッティーハウスリビング】
TEL:0595-98-0678
http://knottyhouseliving.com/



かぶとの森 フィットネス
CAMP & LOG + FITNESS
亀山市加太中在家 812
TEL: 0595-98-0605
http://kabutomori.com/



カフェでは亀山の豚肉、四日市の牛乳、菰野のお米、鈴鹿の卵など地域の食材を使った地産地消メニューが味わえます。フェアトレード雑貨、四日市の万古焼なども販売しています。



祖父・父から受け継いだ山を三兄弟で守っていく



▲三栄林産グループでは、林業という循環型ビジネスの役割を担い、持続可能な地域社会をつくっていくことを目指しています。
中：BROOK代表の三男・丈哉さん
右：長男・英哉さん 左：次男・成哉さん